

## 有明海沿岸道路の整備効果

～分散型県土を形成している佐賀県の重要な道路～



みね かわ こう すけ  
嶺 川 幸 介\*

佐賀県は、自動車への依存度が高く、日常生活や産業を道路が支えている。小都市が点在する分散型県土を形成している本県において有明海沿岸道路をはじめとする広域幹線道路網の整備が不可欠。産業や観光における整備効果が大いに期待されている。

### 1. 佐賀県の特徴

#### 1) 地理的・地勢的特徴

本県は、九州の北部に位置し、朝鮮半島とは200km余りと、東アジアと近接しており、大陸文化の窓口として歴史的、文化的に重要な役割を果たしてきた。大阪・ソウルが500km圏、東京・上海が1,000km圏、北京・台北が1,500km圏にあり、日本、韓国、中国、台湾の主要都市の中間に位置している。

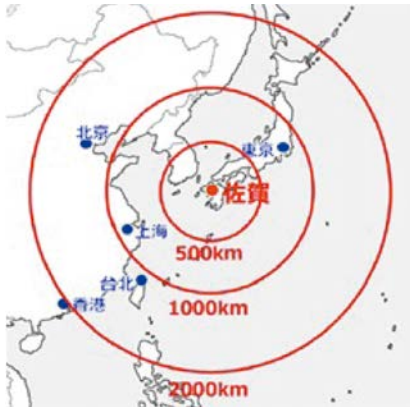


図-1 佐賀県の地理的特性

#### 2) 多様な産業

##### (1) 農業・水産業

佐賀平野を中心とした穀物の生産や有明海でのノリ養殖、玄界灘に面した地域での園芸や畜産など、豊かな自然の恵みを受けた農業や水産業が盛んである。特に、白石平野において生産されている『れんこん』『アスパラガス』『たまねぎ』の収穫量の全国シェアは上位を占めている。

##### (2) 商業・工業

工業の分野では陶磁器産業、家具産業、製菓業といった特色ある地域産業と技術力の高い企業が数多く立地している。特徴的な分野としては、江戸時代に長崎街道を伝って砂糖が豊富に流通したことから製菓業が盛んであり、また、全国でも有数の米どころであることから清酒の醸造も盛んである。

##### (3) 道路と生活

本県では、自動車の①面積当たり、②人口当たり、③1世帯当たりの保有台数が、九州、全国の平均を上回っている。また、旅客の58.6%が自動車を使って移動し、貨物の95.3%が自動車によって運ばれており、自動車への依存度が高く、日常生活や産業を道路が支えていると言える。

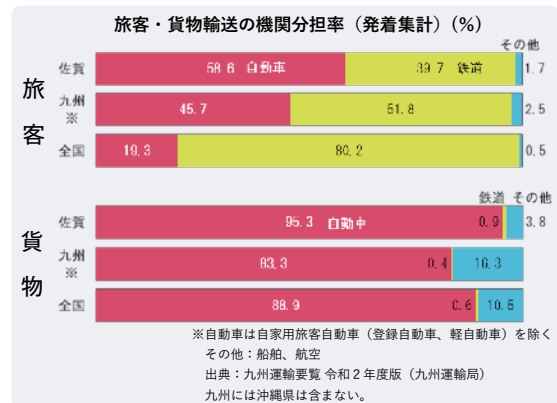


図-2 旅客・貨物における交通手段の割合

\*佐賀県 県土整備部 道路課 企画調整担当係長

## 2. 佐賀県の広域幹線道路網

### 1) 人口の分布

本県の総人口808千人に対して、総人口に占める県庁所在都市である佐賀市の人口は233千人で約29%を占めている。



図-3 佐賀県内の都市の分布状況

一方で人口密度は340人/㎢と九州では福岡県に次ぎ第2位、全国でも第16位と高く、このことから本県は人口密度が高く、小さな都市が点在する分散型県土を形成していることが分かる。

### 2) 佐賀県の広域幹線道路網

小さな都市が各地に点在する分散型県土を形成している本県にとって、県内都市間や隣県都市及び主要な物流拠点（空港、港湾、鉄道駅等）・観光地等を結ぶ幹線道路網の強化が必要なため、地域にとって将来の発展のベースとなる広域幹線道路を基軸とした幹線道路網の整備が不可欠である。

本県では、有明海沿岸道路、佐賀唐津道路、西九州自動車道及び国道498号の4つの幹線道路が重要な役割を果たしている。



図-4 佐賀県内の広域幹線道路網

## 3. 有明海沿岸道路

### 1) 有明海沿岸道路の概要

有明海沿岸道路は、福岡県大牟田市の三池港から佐賀県鹿島市を結ぶ全長約55kmの高規格道路で、佐賀県内では福岡県境から（仮称）佐賀JCTまでを国土交通省、（仮称）佐賀JCTから鹿島市までを佐賀県において整備を進めており、特に有明海沿岸道路と佐賀唐津道路が交差するエリア「Tゾーン」を重点的に整備を進めている。



図-5 有明海沿岸道路

### 2) 直近の開通状況と今後の予定

国土交通省により整備が進められている大川佐賀道路において、令和3年3月に大川東IC～大野島IC間の約3.7kmが開通した。また、県で整備を進める佐賀福富道路において、令和3年7月に芦刈南IC～福富IC間の約3.5kmが開通した。

さらには、大川佐賀道路の大野島IC～（仮称）諸富IC間が令和4年度開通予定であり、有明海沿岸道路で福岡県と佐賀県が初めて繋がることとなり、福岡県南西部や佐賀県南西部とのアクセスがますます向上し、産業、観光をはじめとした地域経済の発展の支えとなると大変期待しているところである。

## 4. 有明海沿岸道路の整備効果(ストック効果)

有明海沿岸道路の整備により、時間短縮効果はもとより、産業振興や観光振興の活性化、交通事故の減少、交通渋滞の緩和、災害時の人や物資の輸送、救急搬送時間の短縮など、様々な整備効果が期待されている。

### 1) 九州佐賀国際空港の利用者数の増

九州佐賀国際空港は、九州では離島を除く空港で



唯一の県営空港であるが、平成23年度に初の国際線となる上海便が就航した。現在は新型コロナウイルスの影響により減便・休止しているが、国内線では東京便、成田便、国際線では上海便、ソウル便、台湾便、西安便とアジア各地域との玄関口に成長した。有明海沿岸道路の延伸に伴いより早く、より遠くへの移動が可能となったことで空港の勢力圏が拡大し、平成30年度の利用者数は約82万人となり6年連続過去最高を更新するなど、利用者の増に大きく寄与している。

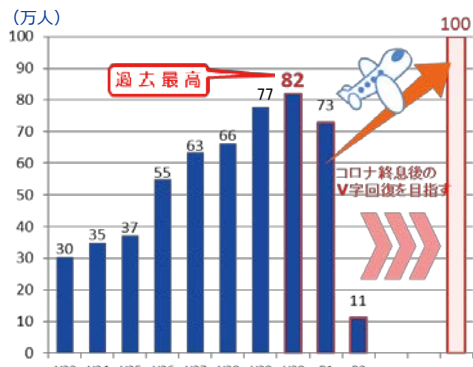


図-6 九州佐賀国際空港の利用者数

## 2) 観光集客圏域の拡大

毎年秋に開催される「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」は、80万人を超える来場者数を誇る佐賀を代表するイベントである。有明海沿岸道路（福岡県区間）の開通前と比べ、来場者数が大幅に増加。佐賀県側への延伸とともに、他県からの来場者のアクセス向上が図られ、更なる経済波及効果が期待される。



写真-1 佐賀インターナショナルバルーンフェスタ

## 3) 農水産業の輸送効率化

高級食材の「芝エビ」は、佐賀県鹿島市、太良町沿岸の有明海が産地として全国的に有名であり、県産「芝エビ」は、東京市場で第1位の取扱量となっ

ている。東京市場へは福岡空港から空輸されており、有明海沿岸道路が整備されることで、輸送時間の短縮が図られ、もっと新鮮で高品質な「佐賀県産芝エビ」が東京へ届けられる。



写真-2 佐賀県産芝エビ

佐賀県産のアスパラガスは、九州佐賀国際空港から空輸され、取扱量は11年連続で上位1位、2位を独占している。有明海沿岸道路の整備により、スピーディーな輸送が可能となり新鮮なまま東京の食卓へ輸送が可能となっている。



図-7 アスパラガスの輸送経路

## 5. おわりに

有明海沿岸道路は、本県の産業振興や観光振興、災害時の人や物資の輸送の確保など「命の道」としての役割など、本県の未来を支え、成長の基盤となる重要な社会資本である。

今後、福富鹿島道路や鹿島諫早間へと延伸していくことで、佐賀県だけでなく、長崎県や福岡県、熊本県と有明海沿岸道路でつながることで、人や物の交流がますます活発になり、その整備効果は大いに広がり、地域経済の発展につながっていくことを期待している。

【著者紹介】 嶺川 幸介 (みねかわ こうすけ)

平成11年佐賀県入庁(土木職)。唐津土木事務所、佐賀土木事務所等で主に道路事業を担当。平成29年から令和元年九州本土で唯一の県営空港である九州佐賀国際空港を所管する空港課に勤務。道路課勤務は平成17年度から20年度に続き2度目。